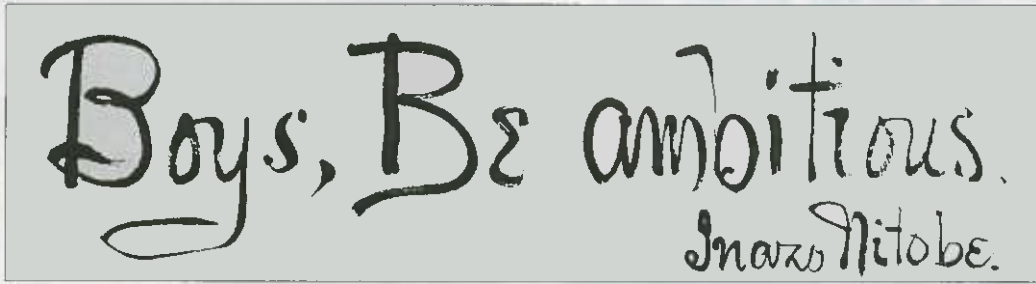


十和田市立 新渡戸記念館だより



▲新渡戸稲造書複写 (袋井市・鈴木恒雄さん提供)



新渡戸稲造博士が書いた クラーク博士の名言 「Boys, Be ambitious. 少年よ大志を抱け」

◀新渡戸稲造
厚木市・関谷丹さん寄贈の写真

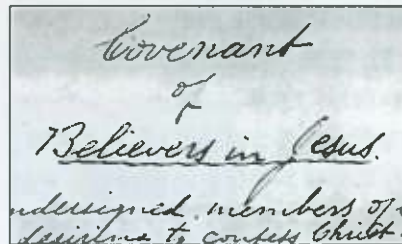


▶ウィリアム・S・クラーク
「クラークの手紙—札幌農学校生徒との往復書簡」(北海道出版企画センター)より転載

この度、静岡県袋井市在住の鈴木恒雄さんが袋井市立図書館所蔵新渡戸稲造書「Boys, Be ambitious.」(複写)よりさらにコピーを取り当館へ提供くださいました。書体などから袋井市立図書館蔵の書は北海道大学所蔵のものの複写と思われる。記念館ではそれをもとにレプリカを作成し、2階新渡戸稲造コーナーへの展示を予定しています。

新渡戸稲造と W・S・クラーク

新渡戸稲造は明治10年(1877)15歳の時、札幌農学校に2期生として入学しました。札幌農学校はその前年、1年間の休暇をとり来日したアメリカ・マサチューセッツ州立農科大学長ウィリアム・S・クラーク博士を教頭にむかえて開校していました。クラークは道德教育にキリスト教を導入するなど新しい教育法を用い、わずか8ヶ月の滞在にもかかわらず、その近代的教育は1期生に多くの精神的感化を与えました。新渡戸稲造をはじめとする2期生も直接の指導は受けなかったものの、1期生を通してクラークから思想的影響を受けたといわれています。「紳士たれ(Be gentleman.)」をモットーに、校則によって縛るのではなく自己の良心と責任によって行動させるクラークの教育方法は、教育者・新渡戸稲造に受け継がれています。「Boys, Be ambitious. (少年よ大志を抱け)」の言葉は札幌農学校を去る時、見送りに来た1期生に向かって馬上から生徒たちへ呼びかけた言葉として有名で、教育者クラークの精神を写し出す名言です。



◀クラークが帰国1ヶ月前にしたための「イエスを信ずる者の誓約」の表題部分。生徒の自発的な署名を求め、1期生は16名全員が署名した。

▶「イエスを信ずる者の誓約」の新渡戸(太田)稲造署名部分。稲造は他の2期生に先立ち真っ先に署名している。

T. Ono.
J. Ota.



▲明治10年札幌農学校時代の新渡戸稲造(前列左から2番目)

12月31日~1月1日 太素塚元朝参り

~お神酒・甘酒の
無料サービスがあります~

新収蔵資料

明治30年代～昭和初期

新渡戸稲造関連雑誌

このたび古書店より新渡戸稲造関連の雑誌28冊を収集しました。明治34年(1901)から昭和9年(1934)にかけて出されたこれらの雑誌は、稲造の思想だけでなく、当時の世相の中で、稲造がどのような社会的位置をしめていたかなど多くのことを教えてください。

新収蔵雑誌に掲載の関連記事一覧

『実業之世界』

5巻2号(明治41.6.1) 随筆：青年の元気は如何にして回復すべきか

5巻3号(明治41.7.1) 談話：デパートメントストアは如何に小売り商店に影響するか/後藤新平男に学ぶべき点

5巻4号(明治41.8.1) 随筆：花柳界における紳士の交際と其の矯正法/予の見たる故兒玉大将/インタビュー：名士と記者の快気焔・新渡戸稲造氏

5巻5号(明治41.9.1) 随筆：現代学生三大欠点及び其の矯正策

6巻3号(明治42.3.1) 随筆：後藤男爵は近頃何故に評判悪しきか/インタビュー：名士と記者の快気焔・実業之日本編集顧問新渡戸稲造氏と語る

6巻4号(明治42.4.1) 随筆：余は日本の侠客傳を讀みて如何に感じたるか

6巻5号(明治42.5.1) 講演録：第1回「実業之世界」先輩青年連合大演説会—先輩と青年との調和策—/記事：観相学上より見たる名士の性相・実業家の性相を有する新渡戸博士

『実業之日本』

12巻25号(明治42.12.1) 随筆：現代社会観・満韓問題に関して我輩は此の点を内外人に警告す/必ず心得べき応対談話の三要件

30巻22号(昭和2.11.15) 随筆：世界環視下の日本人

31巻4号(昭和3.2.15) 随筆：犠牲論—再び犠牲精神の何たるかを説く

32巻3号(昭和4.2.1) 随筆：昭和青年の修養—時代の変化に伴う修養の新方法

32巻9号(昭和4.5.1) 随筆：逝ける後藤新平伯

36巻8号(昭和8.4.15) 随筆：米國は日本をどう見ているか

36巻10号(昭和8.5.15) インタビュー：新渡戸博士に物を訊く会その2(脱退後の日本は果して光榮ある孤立か・アメリカと日本はどこがどう違うか・これからの青年学生が進むべき道)



▲収集した雑誌の一部

36巻12号(昭和8.6.15) 随筆：非常時に際して心掛くべき三ヶ條

36巻15号(昭和8.8.1) 随筆：満州朝鮮

36巻22号(昭和8.11.15) 追悼文：新渡戸先生から受けた私の教訓

37巻21号(昭和9.11.1) 追悼会写真：新渡戸稲造博士を偲ぶ/追悼談話：新渡戸稲造博士長逝一周年・追悼晩餐会と追悼記念講演会

37巻22号(昭和9.11.15) 追悼講演録：新渡戸稲造博士を偲ぶ・故博士追悼記念講演速記1

『女学雑誌』

513号(明治34.2.25復刻版) 講演録：明治女学校講演記録 欧米婦人談・其1

520号(明治36.8.25復刻版) 講演録：ゲーテとカーライル・其2

『婦人画報』

101号(大正3.10.1) 随筆：妻の虚榮は良人の責任

103号(大正3.12.1) 随筆：歳の暮れに

『女学世界』1巻7号(明治34.6.5) 講演録：明治女学校講演記録 欧米婦人談

『婦人世界』10巻7号(大正4.6.1) 随筆：男子の職業の選びかたと親の注意

『産業組合』21号(明治40.7.15) 講演要旨：帝国教育会場 報徳公例会講演 地方の研究

『太陽』19巻8号(大正2.6.1) 随筆：防火の学術的研究を促す

『文芸春秋』5年5号(昭和2.5.1) インタビュー：新渡戸稲造博士座談会

新渡戸稲造関連雑誌収集の意義

新渡戸稲造は明治42年(1909)から経済雑誌『実業之日本』の編集顧問となり、修養講話、時事評論などの寄稿をおこなっていましたが、その他にも多くの大衆雑誌、婦人雑誌に寄稿しています。実業之日本に連載を行った修養講話については著書『修養』『世渡りの道』に収録されているものもありますが、未収録や収録にあたって改訂されたものもあり、全てを把握することが難しくなっています。雑誌のような逐次刊行物は捨てられることも多く残りずらい資料ですので、関係雑誌の収集と保存を今後さらに進めていきたいと考えています。



◀『実業之日本』12巻25号(明治42年12月1日)

初期の表紙は日本地図に経済情報を盛り込んだデザイン。これは水田地価比較と官鉄・私鉄の年度別益金比較グラフを示したものの。



◀『女学世界』1巻7号(明治34年6月5日)



▲『太陽』19巻8号(大正2年6月1日)

インタビュー記事が伝える稲造の素顔

★『実業之世界』一名士と記者の快気焰一

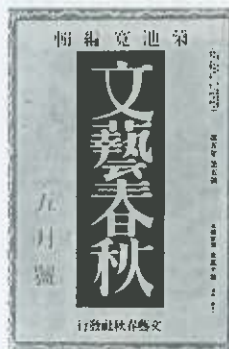
慶応義塾商業学校交友雑誌『実業之世界』(「三田商業界」より改題)は「名士と記者の快気焰」として編集者・野依秀一と各界著名人の雑談を載せており、今回収集した雑誌にも稲造との2回の雑談が掲載されています。「新渡戸：やーどうして来たの」「野依：実は先生にお説を伺いに来たんです、先生アナタのご希望は何ですか」「新：僕の希望は山の中にはいって本を読んで居たいのだ」「野：エーソリヤウソでしょう……」このような調子で続く雑談は、今は知ることができない稲造の生前の話口、そして人柄を教えてください。



◀『実業之世界』6巻5号(明治42年5月1日)

★菊池寛編集『文芸春秋』での新渡戸座談会

この座談会は新渡戸稲造が第一高等学校校長をしていたころの教え子、菊池寛、鶴見祐輔、久米正雄が聞き手となり行われたものです。菊池の「第1次大戦後の欧州で一番変わったと思われることは？」との発話から、フェミニズム批評、政治論、さらに稲造が各国で出会った偉人の印象についてと話しは広がります。「新渡戸博士の座談会はたいへん面白いものだと思う。博士は現在の日本が持つ最高のインテレクトの一人だと思う。殊に鶴見氏を初め、自分も久米も新渡戸校長時代の一高にいた関係上、座談会に一味の春風がただよっているのを感じられるだろう。博士が、胸襟をひらいて話して下さったご好意を嬉しく思う。」編集後記冒頭に菊池はこう記しています。



◀『文芸春秋』5年5号(昭和2年5月1日)

寄贈資料より 石井満 著『新渡戸稲造傳』と関連古写真

石井満 著『新渡戸稲造傳』(昭和9年初版)に掲載された新渡戸稲造写真他87点の古写真を関谷丹さん(厚木市)より寄贈いただきました。関谷さんのご尊父関谷渡様は東京において出版社・関谷書店を営まれ、『新渡戸稲造傳』を発行しました。写真とともに寄贈頂いた『新渡戸稲造傳』第6版(昭和10年発行)は、中表紙に「贈呈 杵家女塾」とあり、新渡戸稲造が生前援助した、三味線学校・杵家女塾(杵家弥七開設)の贈呈用に製本されたものと思われます。



▲寄贈頂いた古写真の一部

ありがとうございました

◆資料の寄贈・提供

・関谷丹さん(厚木市)より新渡戸稲造関連古写真87点『新渡戸稲造傳』(石井満 著/昭和10年 第6版)1冊を寄贈いただきました。(詳細3面)

・鈴木恒雄さん(袋井市)より新渡戸稲造書「Boys, Be ambitious.」コピーを提供いただきました。(詳細1面)

◆草花の提供

10月~11月にかけて市内在住の菊愛好家・瀬川安雄さん、杉山豊美さんより菊の鉢植えを記念館入口に出品いただきました。

関連情報

◆太素塚清掃奉仕

10/6 11/3 本瀬戸山老成会

11/17 十和田稲生ライオンズクラブ清掃奉仕

ありがとうございました

◆国際交流団体の来館

10/11 平成14年度アフリカ地域水資源管理研修員10名来館
(国際協力事業団)

10/14 フルブライトメモリアル基金米国教育者20名来館
(日米教育委員会)



▲アフリカ地域水資源管理研修員、同行の立正大学高村弘毅教授、竹島勝昭十和田市議(前列右から3番目と2番目)とともに。

◆10月1日~11月30日の来館小学校

<十和田市>三本木小学校・深持小学校・上切田小学校・沢田小学校・米田小学校・高清水小学校・西小学校・北園小学校<三沢市>三川目小学校<八戸市>城下小学校・

江陽小学校・中居林小学校・森木小学校・八戸小学校・白銀南小学校<五戸町>南小学校・切谷内小学校<上北町>第一小学校・小川原小学校<東北町>蛭沢小学校<名川町>名久井小学校<階上町>石鉢小学校<六戸町>六戸小学校・開知小学校<野辺地町>若葉小学校<青森市>浦町小学校<平内町>茂浦小学校

◆新渡戸記念館来館者用屋外トイレ完成



活動報告

◆館長講演会

11/5 十和田市立ちとせ小学校教職員校内研修講演会
(ちとせ小学校)

11/11 キリスト友会日本年会総会記念講演会
(東京月会会堂)

◆全国博物館大会に館長出席

11月13~15日宮崎市で開催の第50回全国博物館大会に館長が出席しました。「21世紀に対応する博物館の設置・運営の基準と評価はいかにあるべきか」のテーマで活発な議論が行われました。

◆10月29日~11月

1日三本木中学校
2年生職場体験学
習「三中トライや
る・ウィーク」の
生徒1名受け入れ。

記念館での仕事を体験
した立花裕美さん



<編集後記>

お蔭様で新渡戸稲造博士関連資料を寄贈いただいたり、新収蔵品もありました。市民の宝として後世に残したいと思いますのでご協力をお願いします。どうぞ良いお年を迎えられますことをお祈りいたします。

発行 太素顕彰会

十和田市立新渡戸記念館

〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

E-mail:nitobemm@hi-net.ne.jp

http://www.towada.or.jp/nitobe/

印刷 有限会社 岩間印刷所